

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡県と世界をつなぐマイプロジェクトコース)		訪問国	アメリカ合衆国	
学校名	静岡県立静岡高等学校	氏名	柳井 花椰	学年	1年

1. はじめに

私は「ふじのくにグローバル人材育成事業」を利用し、アメリカ合衆国ハワイ州に三週間留学しました。本報告書では、留学の目的、現地で行った探究活動の内容、調査結果、そしてこの留学を通して得た学びと今後の展望についてまとめます。本留学は、「静岡茶をハワイでどのように広めることができるのか」という探究テーマのもと実施しました。

2. 留学の目的

日本では近年、若者を中心に急須でお茶を飲む習慣が減少し、いわゆる「茶離れ」が進んでいます。一方で、海外、特にアメリカでは抹茶ブームが起きており、日本茶がスイーツや飲料、美容分野など、さまざまな形で取り入れられています。この日本と海外のギャップに着目し、静岡茶を海外で広めるためには、どのような価値や伝え方が必要なのかを明らかにすることを目的として、本留学に臨みました。

3. 現地での活動内容

午前中は語学学校に通い、すべて英語で行われる授業を受講しました。クラスメートは多国籍で、日常的に英語を使う環境の中でコミュニケーション力を高めることができました。午後は探究活動を中心に行い、以下のような調査・活動を実施しました。

- ワイキキ周辺での街頭インタビュー（約 50 人）
- スーパーマーケットやカフェでの日本茶商品の陳列調査
- ハワイ日本文化センターでの資料調査
- ホストファミリーや現地の人への日本茶提供・意見収集
- SNS を活用した若年層の反応の観察

これらの活動を通して、現地の人々が日本茶に対してどのようなイメージを持っているのかを多角的に調査しました。



4. 調査結果

調査を通して分かったことは、ハワイでは日本茶が「伝統文化」として保存されているのではなく、生活の中に自然に溶け込む形で受け入れられているという点です。インタビューでは、「Japanese」という言葉そのものがブランド価値として捉えられており、健康や美容に良いイメージが強いことが分かりました。また、店舗調査では抹茶がパスタ、パン、スイーツ、さらには化粧品などにも応用されており、日本では見られない多様な展開が行われていました。

5. 考察

留学前は、「静岡茶のおいしさや品質をそのまま伝えれば広まる」と考えていました。しかし、実際にはそれだけでは不十分であり、健康・美容・ライフスタイルと結びつけた伝え方が重要であると気づきました。日本文化は、形をそのまま守ることで残るのではなく、本質を保ちながら形を変えることで、世界に受け入れられているのだと実感しました。

6. 今後の展望と私の挑戦

今後は、静岡茶を「飲み物」としてだけでなく、日常に寄り添う存在として発信していきたいと考えています。その一例として、抹茶パスタのレシピを考案しました。これは、ハワイで見た抹茶の多様な使われ方をもとに、日本茶をより身近に感じてもらうための試みです。また、今回の留学で身につけた英語で発信する力や、異文化の中で行動する経験を活かし、今後も新しいことに挑戦し続けたいと考えています。

7. まとめ

本留学を通して、私は「行動することの大切さ」と「変化を恐れず挑戦する姿勢」を学びました。静岡茶には、世界の中で進化しながら広がっていく可能性があり、日本と世界をつなぐ架け橋になり得る存在だと感じています。この経験を今後の学びや進路に活かし、さらに成長していきたいです。

8. おわりに

最後に、本留学を支えてくださった家族、学校の先生方、トビタテ関係者の皆様、そして現地で協力してくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

